
平成18年度

病害虫発生予察特殊報(第3号)

平成18年8月21日
神奈川県病害虫防除所長

病害虫名：チャノキイロアザミウマ
Scirtothrips dorsalis Hood

作物名： ナ シ

1 発生経過

- (1) 平成18年7月に、農協顧問からナシの徒長枝葉にアザミウマ類の寄生によると思われる被害があるとの連絡を受けた。
- (2) 翌日、病害虫防除所職員が現地を調査したところ、ニセナシサビダニの被害に類似した徒長枝を多数確認した。その被害葉を持ち帰り検鏡したところ、チャノキイロアザミウマの幼虫と成虫が確認された。
- (3) 7月下旬に再度現地調査を行ったところ、4園中3園でチャノキイロアザミウマの寄生と徒長枝の被害が確認された。被害徒長枝率は86%、3%、50%、0%であったが、50%の園ではニセナシサビダニの寄生も確認しており、被害枝が混発している場合もあった。
- (4) 聞き取り調査では、この地域では2年前から被害が見られていた。また7月下旬に、当該地域以外のナシ栽培地帯でもチャノキイロアザミウマによる被害が確認されており、県下全域に被害がでているものと思われる。
- (5) チャノキイロアザミウマによるナシへの被害は、本県では初めての確認である。

2 形態および生態

(1) 形態

体長は雌成虫が0.9mm程度、雄成虫は0.8mm程度で全体に黄色。1齢幼虫は0.3～0.5mmで黄白色、2齢幼虫は0.5～0.8mmで橙黄色。成虫は、背部中央にたたんだ翅が黒い条に見える。頭部、前胸部は多数の横条刻線に覆われる。

(2) 生態

越冬は、樹冠下の地面や枝幹の粗皮下、落ち葉の下等で、蛹または成虫態で行う。年5～8回の発生。卵から羽化までの発育期間は20で約27日、28で約15日、成虫の生存期間は24で20～30日。蛹化場所は寄主植物により異なるが、樹冠内のすき間や地表面の落ち葉中、土壌表面。

3 被害および寄主植物

(1) 被害

葉裏の葉脈間組織がカスリ状の黒褐色に変色するのが特徴で、被害が激しいと葉表も黒褐色に変色する場合もある。被害を受けた葉は、葉表側に湾曲する場合が多い。徒長枝での被害が多いが、短果枝の被害もある。ニセナシサビダニの被害に非常によく似ており、一見での区別は難しい。被害の見分け方は、サビダニでは徒長枝の先端で被害が多く葉裏側に湾曲する場合が多いが、チャノキイロアザミウマでは徒長枝全体が変色する場合が多く、先端部に成幼虫の寄生が確認できる。また葉の被害痕はチャノキイロアザミウマでは黒褐色のカスリ状であるが、サビダニでは赤～暗褐色のサビ症状で光沢がある感じに見える。

(2) 寄主範囲

チャをはじめカキ、ブドウ、カンキツなどの果樹類やアジサイ、イチゴなどの重要害虫の一種で、100 種を越す寄主植物が知られる。木本類、特にツバキ科、バラ科、ブドウ科、マキ科、ミカン科などに多く寄生するが、草本類には比較的少ない。

3 防除対策

- (1) ナシではチャノキイロアザミウマに対して適用のある薬剤は無い。有機りん系、合成ピレスロイド系、ネオニコチノイド系薬剤等で他害虫との同時防除で対応。
- (2) ニセナシサビダニの被害に非常に良く似ている。サビダニの防除を行っているにも係わらず被害が減少しない場合は、本種の被害である可能性が高い。



被害徒長枝



被害徒長枝の先端部



チャノキイロアザミウマの被害葉（左2枚）と、ニセナシサビダニの被害葉（右2枚）



チャノキイロアザミウマ成虫（左）と、幼虫（右下）

神奈川県病虫害防除所
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
テレフォンサービス 0463-58-6612
http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp